

教科名	公民	科目名	現代社会	学年	1	授業形態	必修
使用教科書・使用教材				単位数	2	授業時数	78
帝国書院『新現代社会』 第一学習社『最新現代社会資料集2020』							
学習目標	最終年となった「現代社会」の総まとめを意識して、歴史的認識を含む広い視野のもと、現代の社会と人間への理解を深めさせ、社会に生きる人間としての在り方生き方を考察させる。生徒自らが考える授業を展開し、社会問題を考察し判断できる個人として必要な能力や態度を養う。						
授業内容概要	学期	単元名・学習内容		学習方法・留意事項・具体的な学習目標等			
	一学期	青年期と自己の形成 日本の文化、思想の特質 個人の尊重と法の支配		人間とは何かを考えながら、自己の生きる課題との関わりにおいて、青年期の意義と課題を理解させ、人間の存在や価値について思索を深め、自らの生き方あり方を主体的に追究させる。 日本文化の特徴を身近なところから確認し、民族的な特質や日本人の生き方なども考察する。 国家や政治の意味、民主政治の成り立ちやその背景にある思想について学び、法の支配や権力分立の原理など人権を守るために採用された仕組みについて理解させる。特に主権者教育の観点から、選挙の意義や現状の問題点を理解させる。 ・自宅学習を余儀なくされた場合はTeamsを通じて動画配信などを行い、生きた授業に近づける工夫をする			
	二学期	現代の民主政治と政治参加の意義 現代の経済社会と私たちの生活		日本国憲法、人権保障と統治機構について学ばせ、自由と民主主義の基本原則の重要性を理解させる。民主主義社会を形成する一員として、自ら考える姿勢を育て、社会に対する批判的考察力を身に付けさせる。 現代の経済社会の変容に触れながら、経済の基本的な知識について理解させ、個人や企業の経済活動における役割と責任について考察させる。市場経済のしくみ、金融と財政、戦後日本経済史など経済の基本的な知識を身につけさせ、現在の日本経済の諸課題などについて考えさせる。また自分たちの将来を豊かなするため、消費者問題、労働問題、社会保障などについて理解させ、現代の問題点をその解決策について考察させる。 ・自宅学習を余儀なくされた場合はTeamsを通じて動画配信などを行い、生きた授業に近づける工夫をする			
	三学期	環境と私たちの生活 資源・エネルギー問題 科学技術の発達 生命倫理など 高度情報社会と私たちの生活		環境問題や生命倫理、高度化する情報技術など、私たちが生きる社会の現状について、中学校での学習を振り返りながら理解を深めさせ、その中で生きる個人として、主体的に問題と向き合う知識と態度を身につけさせる。 ・探究型学習「MIRAI」のテーマ設定に生かせるようにする			
評価の観点と方法	定期考査に加え、日常の授業参加の姿勢、関心・意欲・積極性、課題学習に対する主体的な取り組みなどを総合的に評価する。						

教科名	公民	科目名	政治・経済	学年	3年	授業形態	必修
使用教科書・使用教材				単位数	2	授業時数	78
実教出版 「高校 政治・経済」 とうほう 「政治・経済資料2020」							
学習目標		主権者として、政治や経済に関する基本的な知識を身に付けさせるとともに、社会事象を批判的に考察する力をつけ、社会に対する関心を高めさせる。共通テストに対応できる学力を身に付けさせ、自ら学ぶ姿勢を育てる。					
授業内容の概要	学期	単元名・学習内容		学習方法・留意事項・具体的な学習目標等			
	一学期	現代に至るまでに、経済体制はどのような変化を遂げてきたかを学ぶ。資本主義とその修正、社会主義体制の違い。経済主体、市場の仕組みと市場の限界について学ぶ。 株式会社を中心とした企業活動について。また経済活動を把握する統計の見方、経済成長の概念と計算について学ぶ。 通貨と金融、中央銀行と経済政策について予算の計上、財政の役割と財政政策についてまた税制と国債の問題について学ぶ。 戦後の復興から高度成長、バブル期、現在までの日本経済の変遷について学ばせる。		授業単元のプリントを使用する。 自習の場合は、解説と学習課題プリントをHPにアップまたは配布して学習を支援しながら、オンラインを用いた解説動画をアップする。 世界の経済体制の変化と、市場経済について経済理論の基礎を学んだことを踏まえ、現代の日本経済を支える企業活動や、国民所得などの指標・統計などについて学習する。また金融や財政の仕組みと役割を学び日本の経済政策とその問題点などについて考察できる能力を養う。 共通テストに向けて、学んだ知識で正答を導けるように理解を深める。			
	二学期	国際経済に関する理論を理解させ、世界にまたがる諸問題を考察する。またその中で、日本が果たせる役割についても考察させる 政治とは何か、社会の成立についての思想、法律と法の支配について理解させる。 基本的人権の獲得の歴史について理解させる 各国の人権の獲得から、現代の人権の国際的な広がりを理解させる。 日本国憲法の成立過程を学ばせ、三大原則の意義について理解させる。 日本が平和主義を掲げている理念について理解させる。 現在、憲法で保障されている基本的人権な人権についての考え方などについて理解させる。		現代の社会を築くまでの人類の歩みについて国家権力との闘いや自由と人権の獲得の歴史を考察させる。その学習過程において、現代の基本的人権を守ることがいかに重要か、深く考えることが大切である。 世界で起きている人権問題について、人類が歴史的に獲得してきた理念や理論をもとに、広い視野に立って考察できる力を育てる。 人類の人権獲得の歴史を学んだ上で、日本国憲法の人権保障の意義や、人権を保持し発展させる重要性などについて深く考察させ、主権者としてよりよい社会を築き、共に生きていく意義を理解させる。 またそのための基礎となるのは平和であり、日本が国際平和のためにできることは何かを考察させる。			
	三学期	共通テストなどの演習を用いて、学習したことを発揮する機会とさせる。		各自が演習に取り組むように、自学自習を目指す。また問題の解説を通して、学習内容を深めさせる。			
評価の観点と方法		評価は、定期考査・小テストを中心に、課題の提出状況など平常の学習活動も評価の対象とする。					

教科名		公民	科目名	(選択)現代社会	学年	授業形態
使用教科書・使用教材					3年	必修選択
実教出版 「高校 政治・経済」 とうほう 「政治・経済資料2021」					単位数	授業時数
					2	78
学習目標		主権者として、政治や経済に関する基本的な知識を身に付けさせるとともに、社会事象を批判的に考察する力をつけ、社会に対する関心を高めさせる。共通テストに対応できる学力を身に付けさせ、自ら学ぶ姿勢を育てる。				
授業内容の概要	学期	単元名・学習内容		学習方法・留意事項・具体的な学習目標等		
	一学期	政治とは何か、社会の成立についての思想、法律と法の支配について理解させる。基本的人権の獲得の歴史について理解させる 世界各国の人権獲得の歴史から、現在の人権の国際的な広がりや意義について理解させる 日本国憲法の成立過程を学ばせ、三大原則の意義について理解させる。日本が平和主義を掲げている理念について理解させる。また憲法で保障された人権や、新たな人権の考え方などについて理解させる。		学習プリントを中心に、政治学習の意義を理解させる。自宅学習の場合は、学習プリントをHPに掲載し、オンラインを用いた解説動画をアップする。 世界で起きている人権問題について、広い視野に立って考察できる力を育てる。 人類の人権獲得の歴史を学んだ上で、日本国憲法の人権保障の意義や、人権を保持し発展させる重要性などについて深く考察させ、主権者としてよりよい社会を築き、共に生きていく意義を理解させる。 共通テストに向けて、学んだ知識を理論的に展開して、正答を導けるように理解を深める。		
	二学期	憲法の規定をベースに、日本の民主政治の理念と三権の役割・制度について理解させる。 現在の国際社会を運営する基本理念や、国際機構の役割について理解させる。 米ソ冷戦、第三世界、多極化などの国際情勢の変化について理解させる。 こうした変化の中で、日本が果たせる役割を考えさせる。 現代に至るまでに、経済体制はどのような変化を遂げてきたかを学ぶ。資本主義とその修正、社会主義体制の違い。 経済主体、市場の仕組みと市場の限界について学ばせる。		これまでの人類の歩みをベースにして、現代の国際社会が築かれるまでの経過や、国際社会が共有する基本理念などについて、理論的に考察する。 第2次世界大戦後の国際社会の歴史を理解させ、現代が抱える諸問題について考察する。 現在の国際政治において、日本が果たすべき役割を考察する。 世界の経済体制の変化の歴史と、それぞれの体制の違いを理論的に考察する。 また現在の世界では、市場機構が再び主流となっている。市場機構の利点やその問題点などを理論的に考察する。 これらの過程で経済の基本理論を習得し、入試問題などに論理的に対応できる力を養う。		
	三学期	共通テストなどの演習を用いて、学習したことを発揮する機会とさせる。		各自が演習に取り組むように、自学自習を目指す。また問題の解説を通して、学習内容を深める。		
評価の観点と方法		評価は、定期考査・小テストを中心に、課題の提出状況など平常の学習活動も評価の対象とする。				

教科名	公民	科目名	(選択)倫理	学年	3	授業形態	選択
使用教科書・使用教材				単位数	2	授業時数	78
山川出版社『改訂版 現代の倫理』 実教出版『詳解倫理資料 新訂版』 第一学習社『ステップアップ倫理 Ethics』 山川出版社『改訂版 現代の倫理』							
学習目標 2年目を迎える大学入試共通テストを「倫理、政経」「倫理」で受験する者の実力養成に主眼をおき、講義と演習を行い、受講者相互が学び合う姿勢をつくり、小山台教養主義らしい幅広い教養や思考法を身につけさせる。							
授業内容の概要	学期	単元名・学習内容		学習方法・留意事項・具体的な学習目標等			
	一	人間とは何か 青年期の意義、課題 源流思想 ・ギリシア、キリスト教、イスラム、仏教、中国思想 日本の思想 ・古代日本人、仏教思想、近代日本（儒学など）、幕末～啓蒙、自由民権思想		小山台教養主義に基づき、世界の芸術と絵画について人類の歩みと関連させて学ぶ。絵画や詩などの作品を人間を考える契機として活用し、「倫理」の全体像をつかませる。 アイデンティティのエリクソンやフロイト、フランクフル、小此木啓吾など精神医学者達を紹介し、あわせて生徒自身の内面的な課題に向き合わせる。 自然哲学とソフィスト、ソクラテスなど哲学者、ヘレニズム、古代ユダヤ教、イエス、パウロ、一神教としてのイスラーム、古代インド思想、ブッダ、大乘仏教、儒家、老荘思想、世界宗教の姿について解説する。演習も行う。 日本の風土と人々の生活、仏教の受容、鎌倉仏教、仏教と日本文化について、古典や日本史の学習成果もふまえて理解を深める。江戸時代の儒教、国学、神道の思想、幕末の思想、明治維新と文明開化、福沢諭吉、中江兆民、内村鑑三、徳富蘇峰、幸徳秋水、北村透谷、鷗外と漱石等を解説し理解を深める。			
	二	日本の思想 ・キリスト教の受容、近代的自我、伝統の自覚 戦後の思想潮流 平和主義 西洋哲学～近現代思想 ・人間の尊厳（ルネサンス）、科学・技術と人間、民主社会と自由の実現 社会と個人 人間への新たな問い 社会参加と幸福 現代の諸課題と倫理 ・生命、環境、家族、地域		・石橋湛山と大正デモクラシー、西田幾多郎、和辻哲郎、柳田国男、南方熊楠、柳宗悦などを中心に、日本の近現代の思想の発展、展開を理解させる。 3月実施予定の3年修学旅行に向けて、第二次世界大戦について学び、考察を深めるようにする。あわせて今日の平和に関する課題にも取り組む ルネサンス、宗教改革、近代科学の誕生、経験論と合理論、社会契約説、人格の尊厳カント、人倫ヘーゲル、功利主義、プラグマティズム、社会主義、キルケゴールとニーチェ、実存主義、精神分析学、言語ソシュールとウィトゲンシュタイン、フランクフルト学派、構造主義、生命への畏敬と非暴力、ロールズとセン、マザー・テレサなどを中心に、系統的に思想を理解させる。 現代思想、いくつかの教科書をまたいで各思想家について理解を深めさせる。模擬テストの復習や過去問の演習も行う。 生徒各自の問題意識に合わせて、現代の課題を考察してゆく。その際、記述論述の力を養うようにする。 ・自宅学習を余儀なくされた場合はTeams利用によりオンラインで、個々の状況をみながら授業をすすめる			
	三	まとめと共通テスト対策		・倫理の総合問題、共通テスト対策問題を実施し、生徒の到達度合いを確認したうえで、ねばり強く、基礎確認や弱点補強を行う。 ・倫理分野を含む小論文の対策を行う ・Teams利用で個々の質問に答えるなど受験に対応する			
評価の観点と方法		定期考査を主として、その他小テストや演習課題などへの取り組みや各生徒の成長度合いを見て、知識・理解・関心・意欲・態度などの観点で総合的に評価する。その際に「小山台教養主義」につながる思考力、分析力、表現力などにも考慮する。					